

I 主にある一致の大切さ→「ですから」：1。1：27-30にあるように、キリストの福音を伝える時、反対や迫害や霊的戦いがあるのだから、主にある教会は主にある一致を保ち、志を一つにする事が大切。主にあって一つになることは、神の救いの御目的であり、またそれが、世が神が救い主を遣わされた事を信じるための良き証し→「父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためです」（ヨハネ17：21）。

II 主にある一致を妨げるもの。

1. 「利己的な思い（原語：党派の歓心を買う事、野心、競争心、党派心、利己心、利己主義、我欲、争い、喧嘩、反抗心）」：3。我が強く、互いに他を尊重することなく自分の意見だけを押し通そうする、自分の考えに頑固に固執する。他の人の意見に耳を傾けない。※自分の人生の証し。意見の前に相手への尊敬と愛、感謝の必要。教会の話し合いでも、家庭でも、尊敬、愛、感謝が先行する時、相手は、その人の意見を聞き易くなる。神と人への愛がない時、私たちは、主を中心とせず、自分達の派を作り易い。悪口で一致する分派となる。その分派は、主の愛を中心にしていないので、分派の中で争いが起こり、また分派が生まれる。主につくのではなく、人につく分派だからである。それらにより、主にある大切な一致が壊れる。聖書的対処：「分派を起こす者は、一、二度戒めてから、除名しなさい」（テトス3：10）。悪口の分派を悔い改めるなら教会に受け入れられ、共に教会を建て上げる者とされる。

2. 「虚栄（原語：「空の、内容のない、空虚な」と「栄光、栄誉、名声」の合成語。虚栄心、形容詞：つまらない事を自慢する、うぬぼれの強い）」：3。神の栄光ではなく、自分の栄光、栄誉、名声を求める心。これらの虚栄心は、神の栄光をほめたたえる教会の一致を壊して行く。主は、私達のこれらの罪の為に十字架で死ぬためにクリスマスにこの世に来られた。感謝！

III 主にある一致を保つもの。

1. 「キリストにあって励まし（原語：「そばに、傍らに」と「呼び寄せる、招き」の合成語。「愛の慰め」、「御霊の交わり」、「愛情とあわれみ」。

①キリストは、私達をそばに呼び寄せ、励まし慰めて下さる→御臨在、御言葉、人々、出来事を通して。主は私達が苦しむ時いつもそばにおられる。インマヌエルの神。

②父なる神は、私達を心から愛しておられる。「わたしたちが神を愛したのではなく、神が私達を愛し、私達の罪のために、なだめの供え物（私達の身代わりの死）としての御子を遣わされました（クリスマス、十字架の恵み）。ここに愛があるのです」（Iヨハネ4：10）。

③聖霊なる神は、主を信じる私達の心に生まれ、親しく私達と交わられる。私達の罪を心に示し、主を信じる信仰を与え、非常につらい時も御言葉や御臨在を通して深く慰め励まして下さる。

2. 父、子、聖霊なる三位一体の神の愛、恵みを受けて初めて→「あなたがたは同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、思いを一つにして、私の喜び（パウロは、獄中にいても彼の喜びは、神ご自身であり、主の教会が一致していることだった）を満たしてください」：2を実行することができる。

「同じ思いとなり」=直訳：「同じことを思い続け」。同じ神（父、子、聖霊）のことを思い続ける時、真の一致を保てる。2：6-8の主のへりくだりと愛と従順の姿を思う。「同じ愛の心を持ち」=同じ神から愛される愛を持ちながら一致を保つ事ができる。「心を合わせ」=間違ったことに心を合わせるのではなく、主に心を合わせる。その結果、主にある一致を保つ。「思いを一つにして」=私達の思いは一つ

→「主に喜ばれる事」。「主に喜ばれることが何か見分けなさい」(エペソ5：10)。これを祈り求めつつ一致を保つ。

3. 「何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって(原語：謙遜。動詞形：低くする、へりくだる、当然の権利を放棄する)」：3。自分自身を低くする。主の御心なら、自分の権利を放棄する。これは、私達の力ではできない。私達は神からの力を自分の力と誤解し高ぶり易く、自分のなすべき事、義務を果たすより自分の権利に執着し易い。へりくだりの秘訣は→

①クリスマスと十字架にへりくだられた主(神と等しくある権利を主張されず、私達の罪の為に死ぬために最高にへりくだり人となられた)を静かに見つめる事。

②へりくだる秘訣は、自分の罪と弱さを心から認める事→「だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。おのおの自分の行い(その動機も)をよく調べてみなさい。そうすれば、誇れると思ったことも、ただ自分だけの誇りで、ほかの人に対して誇れることではないでしょう」(ガラテヤ6：3、4)。へりくだったパウロの告白：『キリストは・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるのに値するものです。私はその罪人のかしらですIテモ1：15)。「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる」(哀3：22)。心から感謝!

4. 「互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい」：3。これも自分の力ではできない。罪の心を持つ私達は、人の優れたところを認めるよりも、人の欠点をあら捜しし、責めやすい。自分よりすぐれた人をねたみ、足を引っ張る事がある。※ある会社で実際に行われた事=欠点を数えるか、良い所を数え真実にほめるかの実験の結果は?。会社、教会、家庭にも適用できる。※ある宣教師との交わり。感謝の言葉で励まされる。主からの愛がないと人を悪く言いふらしたりする。しかし、主から愛をいただく時、愛の神は、互いにそれぞれに優れた点を与えておられることに目が開かれる。自己卑下ではなく自己受容する。神の目に高価で尊い存在と認め自分と人を受け入れる。人を悪く言い、見下げる者ではなく、人の優れた点を見つけ、引出し、励ます者に神は変えて下さる。※「あなたに神が与えられた優れた点を生かし、あなたらしくやってください」と励ます。互いに人を自分よりも優れた点、賜物を神から与えられていると認め合う。上辺の言葉ではなく、良い点を褒めてあげ、励ます。与え主の神を崇める。神はそれぞれに違う優れた点、賜物を与えておられる。それを神の栄光、教会の建て上げの為に用いたい。※牧会者と信徒と、互いに神からの良い点、賜物を捜し、認め合い励まし合う教会を目標としている。世界中に、欠点のない牧会者、信徒はいない事を認め、互いに赦し合い、愛し合いたい。※42年の恵み。

5. 「それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい」：4。いつも自分のことだけを考える自己中心なら、主にある一致を壊す。また、自分の事を少しも顧みず、大切にしないなら自分が壊れてしまう。与える事と受ける事のバランスが大切。しかし主から愛をいただいて、主が私をも愛し、そして他の人も愛しておられることを認め、自分のことだけでなく他の人のことも顧みる(原語：目を注ぐ、見守る、心にかける)。相手の立場に立って、自分ならどうだろうと考え、想像(想像力は神の賜物)する愛。私は、これを実践している。完全に相手を理解する事は人には不可能。しかし、相手の立場に自分を置き想像する時、相手への理解が深まり、寄り添う者に変えられる。互いに相手の事を心にかかけ、目を留め、配慮し、お互いの主の導きを尊重し合い、主にある一致を保つ。祈り：罪人である私達のことを顧み、この世に来られたクリスマスと十字架の主イエスのへりくだりと愛を心から感謝します。主の愛を受け、私達も、人々を愛し、顧みる理解者になり主にある一致を保てますように!